

「チバニアン」、ハイキング + 飲み会

9 期 吉田洋次郎

令和 5 年 4 月 10 日、日本列島は高気圧に覆われて雲ひとつない晴天、最高気温は初夏かと思えるほどの暑さでした。

そんな日に千葉組の伊藤俊成、鍋島武と吉田洋次郎（いずれも敬称略）が「チバニアン」へのハイキングに出かけた。朝 JR 内房線五井駅に集合して小湊鉄道に乗り替えた。

その時、鍋島が「今日は自宅にスマホを忘れてきた」とぼやいた。実はそのスマホの地図情報にハイキングのルートを入力してあったのだ。これが後程大変なことに繋がったのである。

小湊鉄道は SUICA や PASUMO が使えないので現金で切符（1 日フリー乗車券：2,000 円）を買った。

約 1 時間で目的地の月崎駅に到着した。



【月崎駅にて、鍋島、伊藤】

さて小湊鉄道の途中駅にはなかなか読むのが難しい駅名があった。では問題です。次の駅名は何と読みますか？

海士有木

飯給

答えは末尾に。

「チバニアン」への道は道標が整備されていて道に迷うこともなく、田園・里山の小道を順調に歩くことができた。カエルや鶯の鳴き声があちこちから聞こえてきた。

約 1 時間で「チバニアンビジターセンター」に到着した。センターで地磁気逆転などを紹介するビデオを見て知識を頭に入れて現地向かった。

急な坂道などを下って数百メートル歩き、養老川に下りた。



【養老溪谷の絶景】

そこは令和 2 年（2020 年）に国際地質化学連合で承認された国際協会模式地（GSSP）「チバニアン」である。



【チバニアンはこのふたりの年齢の一萬倍】



【地磁気の方向を調べるためのコア採取跡】



【白い地層（御嶽山の火山灰：77 万 4 千年前）の下層がカラブリアン、上層がチバニアン】

次の目的地上総大久保駅を経て「石神菜の花

畑」を見るために出発した。ところがいつまで歩いても大久保駅が見えない。途中畑仕事をしていた方に尋ねると道を教えてくれた。「この道を行って三叉路を右に曲がって橋を渡れば大久保駅」とのことであったが、橋を渡って数百メートル歩いても到着しない。

先の方で遮断機の警報音が聞こえ、電車が通過していったが大久保駅は何処にもない。仕方ないので踏切付近で地図を広げて、ああでもないこうでもないと話すと20分ほどでやっと伊藤俊成のスマホと地図で現在地が分かった（鍋島がスマホを忘れてきたのがここで影響した）。

来た道に戻って橋の手前で右折し、やっとのことで上総大久保駅についた。

駅のベンチで持参した昼食をとって一休みしているとダイヤに載っていないのに電車が到着した。女性車掌に乗せてくれるかと聞いたがあっさりと拒否された。団体専用の臨時列車のようだ。

駅前広場のハイキングコースの案内板をスマホに撮って養老溪谷駅に向かってまた歩くことにした。



【Bコース：約6km弱】

いくつかのトンネルを経てゆっくりゆっくりと歩いた。千葉県には高い山がないはずなのに結構登りがきつかった。やっとのことで養老溪谷駅に到着した。

本来の計画では弘文洞跡など養老溪谷を巡る散策の予定であったが、喜寿を過ぎた3人は疲れ果ててしまった。



【養老溪谷駅付近の小湊鉄道の鉄橋】

数分後に五井方面の列車があることが分かって“早くビールが飲みたい”との考えが一致し、列車に乗った。五井駅でJRに乗り替え、千葉駅で京成電車に乗り替えて3人の最寄りの京成津田沼駅で降りた。

幸いにも駅前の庄屋が16時から営業しており、中に入った。全員が生ビールを注文すると唐揚げが2個サービスでついてくる（最初の1杯だけ）とのチラシを見て注文し、ビールで乾杯した。

その後は追加のビールをもう1杯ずつ飲んで各自好きな酒（日本酒や焼酎）に移った。

まだ明るいうちに切り上げ、家路についた。

さて問題の答えは

あまりき

いたぶ

です。

読めましたか？

積み残した養老溪谷のハイキングは、次回（秋ころ）に挑戦することになった。

以上